

日興AMファンドアカデミー
ベーシック

前を向く人の、投資信託。

NISAで始めた投資信託 乱高下するマーケットとの付き合い方 について日興アセットがお伝えしたいこと



いけ ゆきのぶ
池 透暢

車いすラグビー日本代表チームキャプテン
日興アセットマネジメント アスリート社員



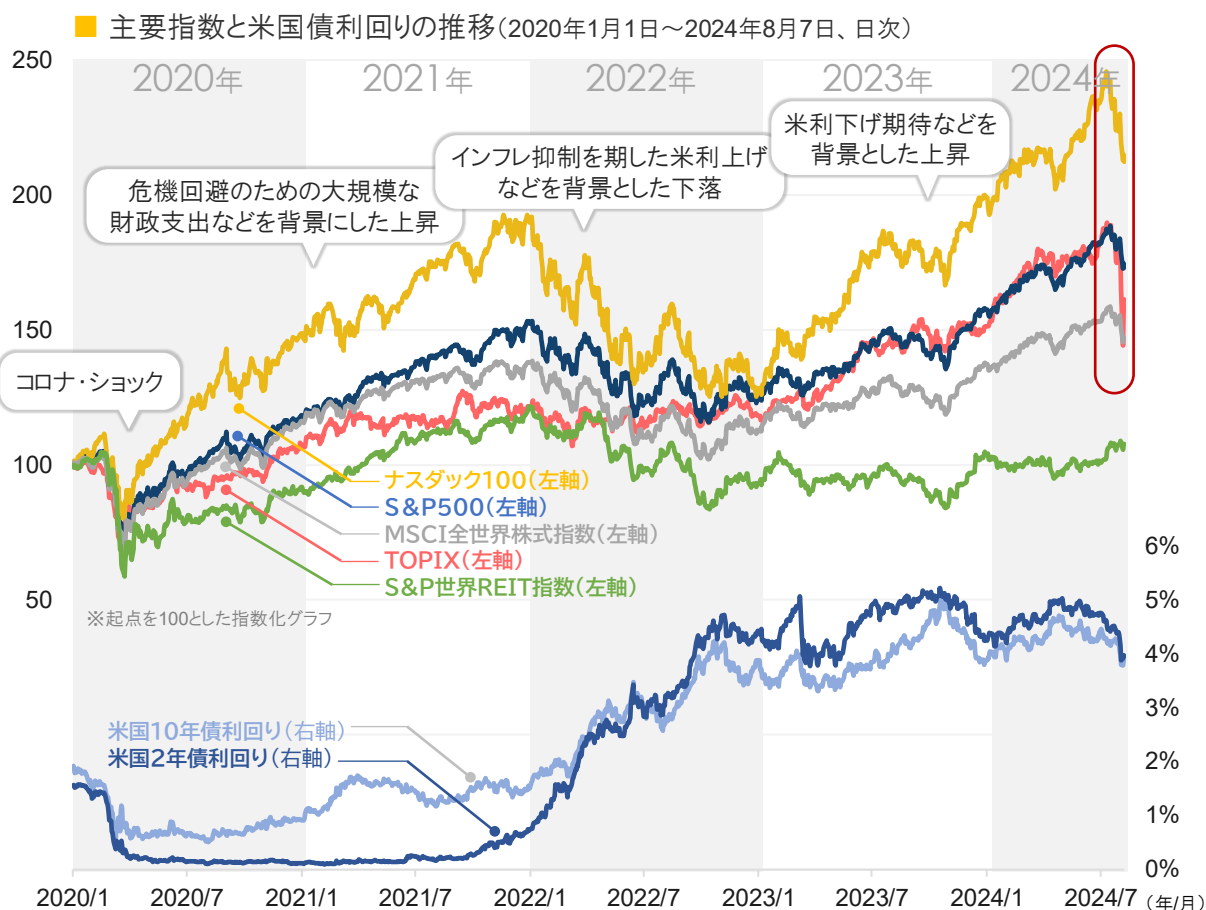
はしもと かづや
橋本 勝也

車いすラグビー日本代表
日興アセットマネジメント アスリート社員

米景気に対する楽観と悲観

昨年初から好調だった投資環境は、8月初旬から一転「視界不良」となっています。特に8月5日に日経平均が1日で4,451円も急落したことは強い印象を残しました。その後も方向感はいま定まらないまま、日々の変動は大きく、新NISAで投資をスタートしたばかりの方は驚き、とまどっているに違いありません。

まだまだ先行きは見通せませんが、コロナ・ショック以降の世界の株価推移を見る限り、これまでの好調も足元の「視界不良」も、大きくは米国市場に左右されてきたといえそうです。



● 海外指数は米ドルベース、株式およびREIT指数はすべて配当込み ● 信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成 ● 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

それまでの「楽観」から急激に変化したマーケット

足元の「株価上昇期」におけるマーケットのロジック(理屈・仮説)は、概ね以下のようでした。



米国のインフレはようやく落ち着き、景気を悪化させるリスクと裏腹である「利上げ」が行なわれることはないだろう。



さすがに米国のコロナ一時金の効果もなくなってもきたようだし、景気を軟着陸(ソフトランディング)させるためにも、「利下げ」が近いはずだ。



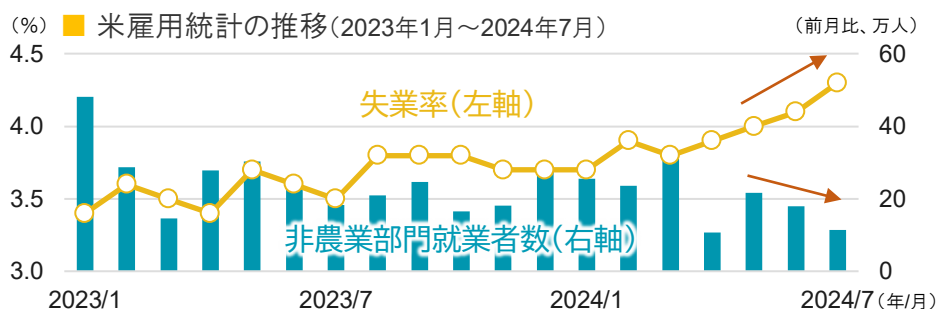
インフレが収まり、景気も巡航速度で、利下げも行なわれるなら、米国の株式投資にとってベストシナリオだ。



エヌビディア社以外にも広がった「生成AIブーム」は、業績インパクトは不透明であるものの、買わない理由はない大きな話のはずだ。

個別銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また当社ファンダにおける保有・非保有および将来の銘柄の組み入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

こうした、やや「楽観」に振れていた米国株式市場が急に「悲観」に転じたキッカケは、8月初旬に発表された7月の米雇用統計でした。想定よりも悪い数値を前に、「米経済は軟着陸どころか実は景気後退期に入りつつあり、生成AIへの期待も含め楽観に振れ過ぎた態度を改めるべき」とのムードが台頭したようです。



●信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成 ●上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

しかし「悲観」に対しても、振れ過ぎている可能性

株式市場を動かすプロや短期投資家などは、その時々ロジックを作り出し、常に楽観と悲観を行き来しているように見えます。しかし「普通の生活者であり、投信購入者」である私たちまでが、彼らと同じ考え方をする必要はないはずです。

日興アセットが発信してきた 3つの「お伝えしたいこと」

「普通の生活者であり、投信購入者」である私たちが、こうした変動時にこそ思い起こすべき大切なことがあると、日興アセットは考え、折に触れお伝えしてきました。

その1 残念ながらマーケットはひとつ

雇用統計など気にせず長期の資産運用がしたい私たちと、常にロジックを変えて勝負する投資家の市場が別々なら良いのですが、残念ながら「マーケットはひとつ」。

投信の基準価額が日々の株価を集計して算出される以上、私たちは彼らの楽観や悲観の結果(株価)を受け入れなければなりません。

しかし彼らと同じものを見ている必要はありません。私たちは、彼らと違うものを見ていることを思い出す努力が求められます。



その2 株価＝利益×ムード

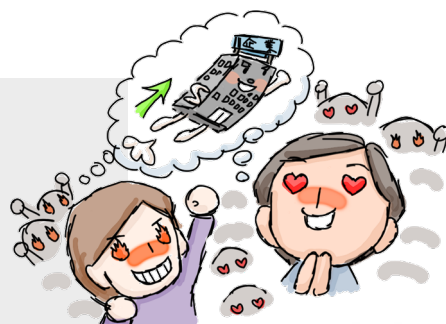
株価が動くとその会社の価値が変化したのだと思いがちですが、会社の価値が秒単位で変わるはずがありません。変わっているのはその会社に対する「楽観度合い」など、市場を取り巻く「ムード」であることがほとんど。

その会社が将来生み出す利益などの価値が本当に落ちたのかどうかを考える冷静さが求められます。

$$\text{株価} = \text{利益} \times \text{ムード}$$

$$\text{PER} = \text{株価} \div \text{利益} \quad (\text{単位: 倍})$$

1株当たり

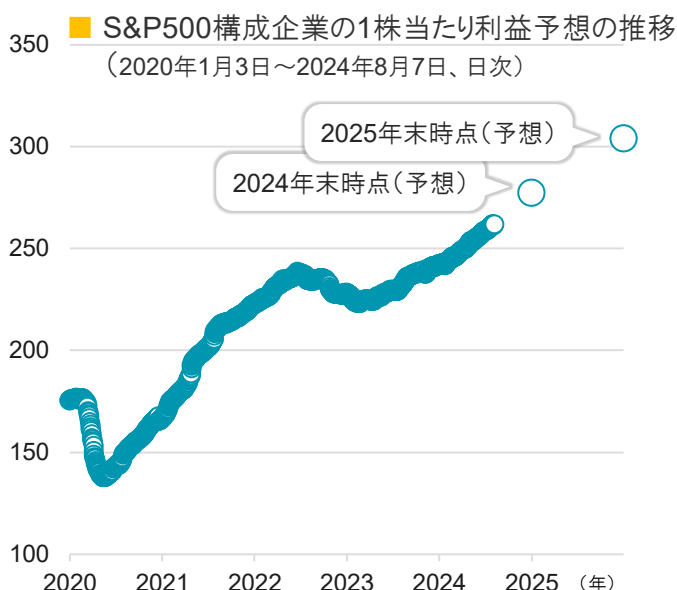


米国の株価指数S&P500採用銘柄の業績見通しを調べると、今後
も全体として利益を伸ばしていくこ
とが見込まれています。

もちろん米景気が本当に大きく落ち
込むなら、各企業の業績も影響を
受けるはずですが、それが果たして
短期投資家と一緒に急いで投げ売
りをすべきまでのものかどうかの見
極めは重要です。

12か月先のコンセンサス予想

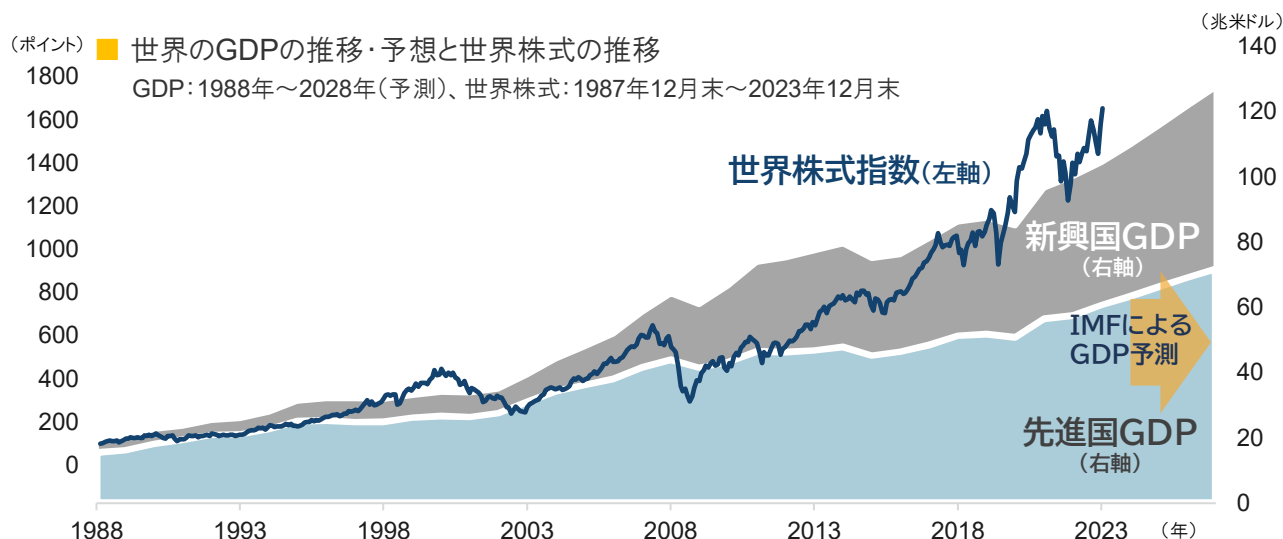
●信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成 ●グラフ・データは過去のものおよび予測であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。



その3 経済は右肩上がり

私たちは、「残念ながららひとつ」のマーケットで繰り広げられる楽観と悲観の議論から
は距離を置き、次のことを思い出す必要があります。

- 俯瞰で見れば「経済は右肩上がり」で拡大してきた。
- 経済を形づくる個々の企業も全体としては利益を右肩上がりで伸ばしてきた。
- これまで同様、今後も大小の困難を乗り越えて経済が成長すると信じるなら、それと軌を一にして上昇してきた株式も長期的にリンクしていくと信じられる。



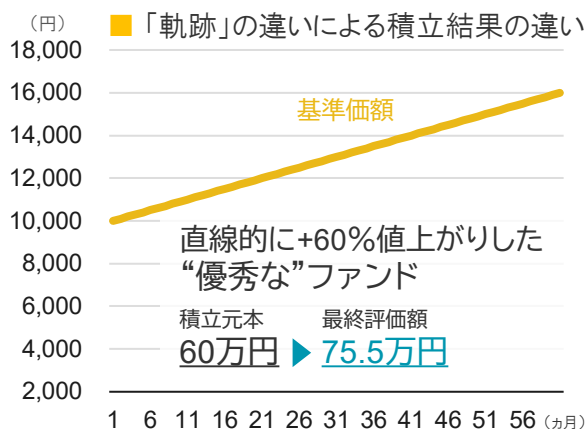
●IMF「World Economic Outlook Database, October 2023」および信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成 ●世界株式はMSCI ACワールド指数(配当込、米ドルベース) ●グラフ・データは過去のものおよび予測であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

新NISAを機に投資信託を始めた方も多いでしょう。好調だった年前半から一転、値動きが激しく、ニュースも騒がしくなって不安な方も多いはず。この機会を改めて「再点検」の機会にしていきたいと、日興アセットは考えています。

1 この変動を機に、 「積立の意義」を再確認したい

上のグラフは、まったくブレずに上昇していくファンドに月1万円ずつ積立投資をしていったケース。

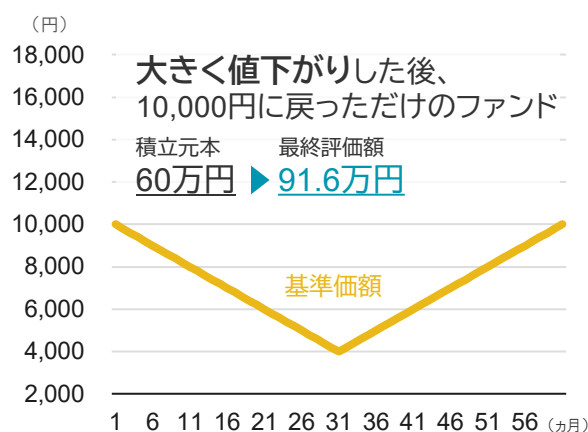
60万円の積立元本に対して、それまでに得た「口数」に終点の基準価額16,000円を掛けた評価額は75.5万円です。



下がっても嬉しい(?)のが積立

下のグラフではスタート直後から一直線に下落しています。その後持ち直すものの、ようやく元の10,000円に戻っただけ。せっかく勇気をもって積立を始めたのにガッカリする推移です。

しかし終点での評価額はなんと、上のケースより21%も多い91.6万円。これは前半の下落局面で、低い基準価額で多くの口数を「仕込めた」効果が、後半に花開いた結果です。



●60ヵ月(5年)にわたり毎月1万円積み立て投資したシミュレーション。
手数料、税金等は考慮していません。●将来の運用成果等を約束するものではありません。

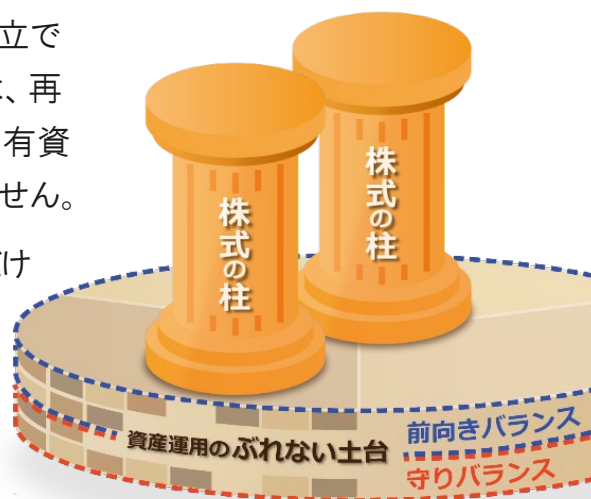
つまり、「仕込み中」である途中段階での下落は、積立にとっては決して悪いことではないのです。

2 この変動を機に、 「リスク耐性」の再確認をしたい

もし8月初旬の乱高下で仕事や家事も手に付かないほどだったとしたら、投資経験に対してリスクの取り過ぎだったのかもしれませんが。とはいえ、「下がっても嬉しい積立」の性質に鑑みると、ここで積立停止などをするのは賢明ではありません。前掲の3つの「お伝えしたいこと」も胸に、淡々と投資を継続いただきたいと思います。

一方で、「NISAは世界株式100%のファンドを積立で買うのが正解」といったステレオタイプな考え方は、再考の余地があるかもしれません。元々、年齢も保有資産も性格も異なる私たちに、唯一の正解はありません。

人によっては、株式を資産形成の柱として持つだけでなく、「ぶれない土台」としてのバランスファンドをNISAの成長投資枠なども用いて保有する「分散」は、検討の価値があるはずです。



為替リスクは宿命？

8月初旬の下落時に、海外資産に投資する投資信託の下落が大きかった背景には、株安に円高が重なったことがありました。仮に米国株式の株価が変わらなくても、1米ドル150円が120円と2割の円高になれば、日本の投資信託は為替要因だけで20%下がります。もし同時に株価も20%下がると、 1.2×1.2 の「ダブルパンチ」で44%ものマイナスに。もちろん逆の「ダブルハッピー（株高×円安）」もあり得ます。

あくまで「主役」は株式など投資資産の方なので、その成長を主として考えて「為替は無視」という態度をお勧めしますが、これから分散のための全体設計をする際には、「通貨の分散」という視点も取り入れておきたいものです。



● 信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成 ● 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

チャンネル登録・フォローをお願いします

日興アセットマネジメントの公式SNSアカウント



日興アセットマネジメント @nikkoamChannel

Tracersシリーズをはじめ、
投資信託やマーケットに関する様々な情報を
分かりやすく、時に深く、
動画でお届けしています。



日興アセットマネジメント @NikkoAMofficial

投資信託やマーケットに関連する
レポートや動画の最新情報などを中心に
あなたの投資に役立つ情報を
タイムリーにお届けしています。



日興アセットマネジメント @nikko_asset

投資信託やお金について楽しく学べる情報を
イラスト盛りだくさんで発信中。
活動を支援している車いすラグビーについても
いろいろな角度からご紹介しています。



日興アセットマネジメント @nikko_asset

マーケットや資産運用に関連する
読みものや動画など
日興アセットマネジメントが公開している
様々な最新情報を定期的に配信しています。



しっかり知って続けるための資産運用ガイドウェブ

投資信託で作る自分の未来

前を向く人の**20年**後^{ラボ}Lab.

by 日興アセットマネジメント

あえてリスクをとって将来の選択肢を増やしたい——
そんな「前を向く人」に向けて、
責任ある「投資信託のメーカー」の立場から、
ずっと使える知識をお届けします。

学びになるオリジナル記事をチェック！▶



●当資料は、日興アセットマネジメント株式会社が投資信託についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。●投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。●当資料の図表等はすべて過去のものであり、将来の市場環境の変動等を約束するものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。また記載内容の正確性を保証するものでもありません。●当資料に示す各指数の著作権等の知的財産権その他一切の権利は、各指数の算出元または公表元に帰属します。